資料２　利用属性ごとのリスクと望まれる配慮事項

各属性がスポーツ施設を使用するにあたっての障壁、その障壁に対する施設側の対応策をフェーズ別に整理しています。なお、利用属性にとっての障壁は、当該属性のすべての人に必ず当てはまるというものではありませんが、起こりやすい、起こる可能性がある内容を記載しています。本編にも記載していますが、記載している障壁に捉われず、当事者の意見を直接把握した対応を行っていくことが重要となります。

また、本資料は、調査の中で洗い出された利用属性にとっての障壁を参考として、全て記載しています。その障壁のうち、具体的な対応策や事例等があるものについては、該当する本編のページ番号を対応策の末尾に記しておりますので、必要に応じて本編の内容を確認してください。（●：本編に詳細が記載されている事項　　○：本編に記載はないが、検討の参考としてほしい事項）

（１）全ての利用属性に共通する事項

※その他：本ガイドブックの範疇ではないが望まれる対応

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他※
１）利用属性ごとに使いやすい点や使いづらい点があり、その内容は、利用属性によっては相違や矛盾が生じる場合がある。	●様々な利用属性や当事者団体へヒアリングして意見を集約(P28)				
２）施設によっては、利用者が固定されている、利用が一部属性に偏る等の事象が起きており、誰もが気軽にスポーツに親しむ場となっていない。	●地域の実情を踏まえた上での機能の検討(P31)				
３）日常的にスポーツを実施しない人、施設を利用していない人等にとっては、施設の雰囲気が暗い空間だと足を運びづらいこともある。		●施設へ来館したいと思う空間設計（P55） ●交流スペース、カフェ等の設置等、スポーツ以外での楽しみの創出（P55）			
４）地域において、普段、利用者が集い、多くの人との交流が少ない人がいる。		●交流スペース、カフェ等の設置（P55）			
５）属性ごとに身体状況が異なり、それぞれの事情で障壁を抱え、スポーツをしたくてもできない場合がある。			●参加しやすいニュースポーツ教室の開催(P74)		
６）施設で実施されているプログラム等の内容や運動難易度がわかりづらい場合がある。 また、特に、障害者の中には、自分がどのようなスポーツが実施することができるか、分からない人がいる。			●教室ごとに参加可能な属性の明示（P75） ●気軽に相談可能な窓口の設置（P84） ●適した教室を案内できるスポーツ指導員の配置とサポート(P85) ●一定の専門性を有した人材の配置（P85） ●地域の専門医師や保健師との連携によるサポート(P86) ●医師や理学療法士による相談機会の設定(P86)		
７）トレーニング器具ごとに利用方法が異なることから、利用方法が分かりづらく、自力で利用することができない。			●トレーニング器具に分かり易い説明の表記(P80)		
８）利用者の中には、サポートをしてほしい人やサポートを望まない人等様々な考えを持つ方がいる。			●利用者の見守りと、必要に応じた声掛け(P84)		
９）洋式トイレに慣れてしまっていることから、利用者の中には和式トイレを使いづらい・使えない人がいる。				●和式トイレを洋式に改修(P99)	

（2）高齢者

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）スポーツを「する」だけだと、施設に来館する機会が少なくなる。また、単身世帯で生活している、同じ世代等との交流する機会が少ないことが健康状態等の悪化に寄与することから、身近なスポーツ施設の複合化が求められる。	●コミュニティの場となるような構想の検討(P31) ●行政機関と民間事業を含め、まちづくりの一環として連携強化(P33)	●コミュニティの場となるスペースの設置(P55)	○介護予防施設との連携	（②設計・建設と同様）	
2）年齢を重ねていく上で、身体の衰えや周りの薦め等から免許返納等を行う人もおり、自動車を利用することができないと、地域によっては、自らスポーツ施設に行くことが困難である。	●アクセシビリティの確保(P33) ●巡回バスや地域コミュニティバス等との連携・提供等による施設のあり方の検討(P33) ●タクシーとの連携による交通費の負担軽減(P60)		●自宅と施設間の送迎によるアクセシビリティの向上(P60) ○高齢者見守り隊など地域の組織との連携		○近隣施設（公民館や社会福祉協議会、民間施設）の情報提供 ○スポーツ施設以外での活動紹介やYouTube 等の活用し自宅で可能な運動ツールを紹介 ○民間施設のバリアフリーや非常ベル設置、手すりや滑り止め等の安全対策に公的な補助や援助 ○日常的な買い物等他の事業との組み合わせの展開（高齢者はワンストップ型を好む傾向）
3）筋肉量等の衰えにより、足腰が弱くなるため、自動車の乗降に苦労したり、駐車場から施設の出入口までの歩行が困難な方がいる。		●施設の出入口近くに思いやり駐車場設置（P36） ●施設入り口までの間、雨に濡れないよう屋根が設置された動線の確保（P37）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保(P60) ●駐車スペースに関する事前相談受付(P60)	（②設計・建設と同様）	
4）筋肉量等の衰えにより、段差の昇り降りが身体的な負担となるとともに、段差につまづき、転倒する恐れもある。 特に古い施設では、施設の出入口に階段がある場合も多く、見受けられる。		●床面のフルフラット化(P38) ●連続性のある手すりを両側の壁に設置(P38) ●段差ができる場合は段差を低くしたり、スロープの設置(P39) ●エレベーター、エスカレーターの設置(P39)	●簡易スロープの設置(P61) ●施設スタッフによる昇降サポート(P61) ●段差迂回ルートやエレベーター設置場所の表記(P62)	（②設計・建設と同様）	○施設にアクセスするまでの道のりもフルフラット化
5）腕の筋力が衰えてくるため、ドアの開閉の際、うまく力を伝えられず、スムーズに開閉を行うことが困難な人がいる。		●力を入れずに開閉可能な引き戸の採用(P40) ●扉の取手の工夫（引き戸の場合は長めの棒状の取手、開き戸の場合はレバーハンドル）(P40)		（②設計・建設と同様）	
6）老化とともに、足腰が弱くなるため、廊下等で転倒したり、壁にぶつかったりしてケガをする恐れがある。		●主要な移動空間等において、滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41) ●壁に衝撃吸収性の高い素材の採用(P41) ●連続性のある手すりを両側の壁に設置(P41) ●移動空間等において、休憩スペースの設置(P41)	●主要移動空間等において、雨天時のこまめな床清掃(P63) ●通路にモノを置かずに整理整頓の実施(P64)	（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
7）手先の細かい作業が困難になったり足腰関節が衰えてきたりするため、立ったまま、靴の着脱が困難である。		●靴を脱がず、土足のまま入館可とするため、汚れづらい床面の採用（P45）	●靴の着脱をする場所に、椅子の設置(P63) ●靴のまま履くことのできるスリッパの設置(P63)	（②設計・建設と同様）	
8）自身の身体の状態でも運動をしやすい施設であるか、来館前に施設情報が分からないと、不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
9）オムツや尿漏れパッドを使用している人もおり、使用済みとなったものを廃棄する場がないと困る。			●女性トイレだけではなく、男性用トイレにもサニタリーボックスの設置(P70)		
10）介護者が異性の場合、一般の男女用トイレや更衣室では周りの目が気になり、一緒に入ることが難しい。また、居室内でのプライバシーにも配慮されたい。		●誰でも利用することができるトイレ、シャワー室、更衣室の設置（P46）	●多目的トイレや更衣室等内にカーテンの設置（P68）		
11）自身の身体の状態に適して、安心して参加することができる教室を望んでいる。			●誰もが参加できるインクルーシブスポーツ教室の開催（P74） ●多様な利用属性が参加可能な教室・プログラムの開催（P75）		
12）疲れやすい人もおり、施設内で疲れた際、いつでも休むことのできる場所が必要である。		●移動空間等において、休憩スペースの設置(P41)	●背もたれや肘掛け付ベンチの用意（P79）	（②設計・建設と同様）	
13）移動の際、転倒を防止するため、杖等を用いる人もいるため、運動直前まで杖等を利用できる環境が求められる。			●体育館の入り口やプールサイド等に杖置きの設置(P83)		
14）自身の身体の状態に適した運動方法が分からない、不安である人のために、健康や運動法についての相談できる環境が望まれる。			●スポーツ活動相談スタッフの配置と窓口等が存在する旨の情報発信（P84） ●スポーツ指導員の配置(P85) ●保健師や栄養士などによる健康相談対応(P86) 〇介護予防施設との連携		
15）スポーツ施設内の利用を促進するため、きっかけとなる要素があると望ましい。			●施設職員による利用者への話しかけの実施(P87) 〇介護予防施設との連携 〇生きがいを見いだせる活動へつなげることを目的としたサービスの提供		〇乗り合いバスなどの運行による利用者の交流のきっかけの創出

（３）肢体不自由者

1）肢体不自由者(立位)

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）肢体麻痺などにより、足を上げ下げしづらく、段差の昇降が身体的な負担となるとともに、段差につまづき、転倒する恐れもある。 特に古い施設では、施設の出入口に階段がある場合も多く見受けられる。	●当事者団体等を含めて意見交換し、対応策を検討（P28）	●床面のフルフラット化（P38） ●段差ができる場合は段差を低くする、もしくはスロープの設置(P39) ●連続性のある手すりを段差や階段の両側に設置（P39） ●エレベーター、エスカレーターの設置（P39）	●簡易スロープの設置（P61） ●施設スタッフによる昇降サポートの実施（P61） ●段差迂回ルートやエレベーター設置場所の表記（P62）	（②設計・建設と同様）	○施設にアクセスするまでの道のりのフルフラット化、もしくはスロープ等の対応
2）杖を突いたり、足を上げ下げしづらい人にとって、移動することは様々な障壁が多いため、家からスポーツ施設まで移動することが困難となる。	●巡回バス等との連携・提供等による施設へのアクセシビリティの検討（P３３） ●タクシーとの連携による交通費の負担軽減（P60）		●巡回バス、最寄り駅からの送迎バス等によるアクセシビリティの向上（P60） ●タクシーとの連携による交通費の負担軽減（P60） ●施設のホームページ等でバリアフリールートの明示（P62）		○自宅でも運動できるメニューを提供・紹介 ○自治体や社会福祉協議会の支援の可能性の確認
3）杖等を持っていたり、体感が不安定であることから、重いものを持つことが難しいことから、競技やコート等の設営が難しく、手間と感じる人がいる。	●ボランティアの育成のための拠点としての位置づけの検討（P34）	●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52） ●障害者スポーツ用品の貸し出し（館内に加え、館外の周辺施設等）（P８８） ●職員等による設営のサポートやフォローの実施（P88） ●スポーツ施設職員による積極的な声がけとサポートの実施（P88） ●ボランティアの育成・活用（P88）	（②設計・建設と同様）	
4）駐車場において、介助・介護が必要な場合、一般利用のスペースでは狭く、乗降が困難である。 また、歩行や雨が降っている場合、傘を差しながら、乗降することが困難である。		●施設の出入口近くに思いやり駐車場設置（P３６） ●施設入り口までの間、雨に濡れないよう屋根が設置された動線の確保（P37）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
5）ドアの開閉の際、肢体麻痺などにより、力をうまく伝えられないため、扉を押したり、引いたりすることが難しい人がいる。		●力を入れずに開閉可能な引き戸の採用（P40） ●扉の取っ手の工夫（引き戸の場合は長めの棒状の取っ手、開き戸の場合はレバーハンドル）（P４０）		（②設計・建設と同様）	
6）肢体麻痺のために体幹が安定していない人が歩いて移動している際、廊下等で転倒したり、壁にぶつかったりしてケガをする恐れがある。		●連続性のある手すりを両側の壁に設置（P39） ●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用（P41） ●壁に衝撃吸収性の高い素材を採用（P41） ●休憩スペースの設置（P41）	●雨天時のこまめな床清掃（P63） ●通路にモノを置かない（P64）	（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
7）肢体麻痺のために体幹が安定していない人が、体育館で運動している際、滑ったり、転倒してケガをする恐れがある。		●スポーツの実施内容やその場の活用内容に適した床の採用（P52）		（②設計・建設と同様）	
8）トイレや更衣室等のバリアフリー設備が整っていても、片側だけの設置では、片麻痺の利用者によって力の入れ方や動作範囲が異なることから、利用しやすいとは限らない。		●トイレのペーパーホルダーや更衣室内のシャワーヘッドの設置場所が左右対称の空間を各１室以上設置（P44） ●固定式と反対の位置に可動式のペーパーホルダー設置（P44）	●シャワー室や更衣室にマットや椅子の用意（P65）	（②設計・建設と同様）	
9）片麻痺の人など体幹が暗転しない場合、立った状態での靴の着脱が困難な人がいる。		●土足での入館可とするため汚れづらい床面採用（P45）	●靴の着脱をする場所に椅子の設置（P63） ●靴のまま履くことのできるスリッパの設置(P63)		
10）介助者が異性の場合、一般の男女用トイレや更衣室では周りの目が気になり、一緒に入ることが難しい。また、居室内でのプライバシーにも配慮されたい。		●誰でも利用することができるトイレ、シャワー室、更衣室の設置（P４６）	●多目的トイレや更衣室等内にカーテンの設置（P６８）	（②設計・建設と同様）	
11）介助犬とともに施設を利用することができるよう、介助犬にも配慮した受入環境が求められる。		●介助犬用トイレの設置（P50）	●介助犬待機スペースとトイレスペースの確保（P71）		
12）障害者スポーツのための用具や備品は、特殊なものや規格が大きいものがあることから、毎回、利用者自ら持参することは負担となる。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
13）体幹が安定していない、身体の一部が不自由であることによって、プールサイドの移動やプールへの入水が困難な人がいる。		●プール内にスロープ設置（P51）	●プールサイド等に杖置きを設置（P83） ●スタッフによる入水支援（P87）	（②設計・建設と同様）	
14）施設を利用する際、どのような環境や配慮がされているか分からず、利用者の身体の状態でも使うことができるか、サポートを受けることができるか等、不安に感じる人がいる。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
15）利用申込書の記入事項が多いと身体の負担が増して大変に感じる人がいる。			●受付・申し込み手続きの簡素化（P72）		
16）施設を利用する際、介助者が必要の場合、その介助者の利用料金を徴収されることがあり、それが負担となり、来館しづらい人がいる。			●障害者だけではなく、その介助者も減免の対象化（P74）		
17）移動や運動の際、身体的な負担が大きいことから、気軽に休憩する環境が望まれる。			●背もたれや肘掛け付ベンチの用意（P７９）		
18）利用者の障害の特徴が異なるため、利用者の属性を問わず容易に扱える道具や備品の準備や利用者にあったサポートが求められる。			●利用者に適した教室の案内、相談できる環境整備（P84，85） ●スタッフによる適度なサポート（P87） ●利用者の障害の特徴に応じて、片手で利用できるトレーニング機器の導入（P88）		

2）肢体不自由(車いす利用者)

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）段差を越えることが難しく、電動車いすの場合、車輪を持ち上げることができず、進行の障壁となりうる。また、特に古い施設では、施設の出入口が階段となっている場合も多く見受けられ、来館への障壁となりやすい。	●当事者団体等を含めて意見交換し、対応策を検討（P28）	●床面のフルフラット化（P３８） ●フルフラットなバリアフリー対応トイレの設置（P44） ●エレベーターの設置（P39）	●段差解消にむけ、スロープの設置（P61） ●スポーツ施設職員による積極的な声がけによる、段差等でのサポートの実施（P61）	（②設計・建設と同様）	○施設にアクセスするまでの道のりもフルフラット化
2）自宅から施設までの道のりにおいて、段差など移動のための障壁が多いため、自力での外出することが難しいことがある。	●巡回バス等との連携・提供等による施設へのアクセシビリティの検討（P３３）		●施設だけでなく、アクセシブルルートなどを公開し、事前学習による移動への心理的障壁の排除（P54） ●巡回バス、最寄り駅からの送迎バス等によるアクセシビリティの向上（P60） ●タクシーとの連携による交通費の負担軽減（P60）		○施設のプログラムとして、自宅でも運動できるメニューを提供・紹介 ○自治体や社会福祉協議会の支援の可能性の検討・確認
3）スポーツを実施するにあたり、車いすから降りて物を運んだり、ラインを敷いたりすることが困難となるため、コートの設営等といった準備が手間となる。	●ボランティアの育成のための拠点としての位置づけの検討（P34）	●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52） ●障害者スポーツ用品の貸し出し（館内に加え、館外の周辺施設等）（P８８） ●職員等による設営のサポートやフォローの実施（P88） ●スポーツ施設職員による積極的な声がけとサポートの実施（P88） ●ボランティアの育成・活用（P88）		
4）一般駐車場では、車いすへの乗り降りするためのスペースが不十分である。また、歩行や雨が降っている場合、車から車いすへの乗り降りの際、傘を差しながら移動することが困難であり、濡れてしまう。		●施設の出入口近くに車いす使用者用駐車スペースの設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●施設の出入口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●車いす使用用駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
5）居室出入口が狭いと車いすの幅員では出入りすることが困難である。		●出入り口の充分な幅員確保（P40）		（②設計・建設と同様）	
6）車いすに座っている際、取っ手に手を伸ばすことが難しかったり、力を入れづらかったりする場合があり、ドアの開閉をしづらい人がいる。		●力を入れずに開閉可能な引き戸の採用（P40） ●扉の取っ手の工夫（引き戸の場合は長めの棒状の取っ手、開き戸の場合はレバーハンドル）（P40）		（②設計・建設と同様）	
7）車いすの座面が低いため、高い場所に手が届きにくく、不便な場面が多い。		●受付台や洗面台等に高さの低い規格を採用（P43）		（②設計・建設と同様）	
8）車輪や足元がつっかえてしまい、ロッカーや洗面台に近づくことができず、使用しづらい。		●受付台、更衣室のロッカー、洗面台等に足元が入るスペースを確保（P43）		（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
9）目線が低いため、高い位置の情報を見づらい。		●床面や壁の低い位置に居室情報等のサインを記載（P44）		（②設計・建設と同様）	
10)外でタイヤに付着した汚れで施設内を汚さないか気になって使いづらい人もいる。		●汚れづらい床面採用（P45）	●マットの設置（P63） ●車いす清掃用機器の用意（P63）		
11）介助者がいる場合、一般の男女用トイレでは周りの目が気になるとともに、異性介助がしづらい。		●誰でも使える多目的トイレの設置（P46）		（②設計・建設と同様）	
12）脊髄損傷をしている人の場合、体温調節ができないことから、暑すぎたり寒すぎたりすると体調不良になりやすい人がいる。		●エアコンの設置（P46） ●屋外施設と屋内施設が隣接した設計（P46）	●気温や暑さ指数の定期的な計測と分かり易い表示（P77） ●送風機や暖房器具の用意（P78） ●エアコン設置部屋の休憩スペースとしての活用（P78）	（②設計・建設と同様）	
13）介助犬が必要な利用者の場合、利用者の運動時に介助犬が待機できるスペースや介助犬用のトイレが必要である。		●介助犬用トイレの設置（P50）	●介助犬待機スペースとトイレスペースの確保（P71）		
14）荷物を手で持つことができず、スポーツをするための用品や用具の持参が難しい場合がある。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
15)プールサイドが狭いと車いすでの移動が困難である。		●車椅子利用者同士でもすれ違える幅を確保（P51）			
16）自力でのプールへの入水が困難である。		●プール内にスロープ設置（P51）	●プール用車いすの貸し出し（P87） ●スタッフによる入水支援（P87）	（②設計・建設と同様）	
17）スポーツを観戦する際、車いす席がない、または場所を選択することができず、快適に観戦することができない。		●高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準やTokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン等を参考に設計（車いす使用者観覧席の分散設置など）（P56）	●見やすい１階にスペースを確保（P89） ●観覧席での観覧が無理な場合は、フロアに安全に観覧できるスペースと同伴者の椅子の用意（P89）	（②設計・建設と同様）	
18)介助犬を必要とする人が観戦目的で来館した場合、介助犬の待機スペースが必要となる。		●介助犬の待機スペースとして利用できるよう取り外し可能な座席の設置（P56）		（②設計・建設と同様）	
19）視線が低いため、観戦中、前の人が立ち上がると見えづらくなり快適な観戦が困難となる。		●サイトラインに配慮し、前の座席の人が立ち上がっても見える高さに設置（P56） ●車いす席の前の仕切りを透明のガラスにする（P56）		（②設計・建設と同様）	
20）車いすを利用した状態で使用できる設備や器具が限られるため、来館前に設備などの情報が分からないと不安に感じる。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
21)シャワーを浴びたり着替えたりすることが困難である。			●シャワー室や更衣室にマットや椅子の用意（P65）		
22）たとえ介助者であっても排便時に近くに			●多目的トイレ内にカーテンの設置		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
いられることが不快である。			（P68）		
23）電動車いす利用者は、移動及び来館中に電源切れになると移動が難しくなる恐れがある。			●電動車いす利用者が利用可能なコンセントの場所の確保と周知（P70）		
24）介助者に同行してもらわないと来館しても運動が難しいものの、介助者の利用料金が負担となり来館しづらい人もいる。			●介助者も減免対象化（P74）		
25）体重を計測する際、車いすから降りて測定することが困難である。			●車いす用体重計の導入（P78）		
26）標準的なトレーニング器具に乗り移ることが難しいため、利用が困難である。			●椅子を取り外すことができるトレーニングマシン導入（P81）		
27）車いすの横幅が広いため、トレーニング器具の間隔が狭いと移動が困難となる。			●車いす利用者が余裕をもって移動できる間隔を確保（P81）		
28）車いすで利用すると床を傷つける恐れがあるという理由で体育館の利用を断られることがある。			●床の正しいメンテナンス法の理解（P82）		

（4）視覚障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）自動車等で施設へ行くことができず、移動手段が限られる。	●巡回バスや地域コミュニティバス等との連携・提供等による施設のあり方の検討（P33）		○自治体、社会福祉協議会に相談し、安全に移動できる方法の協議 ○施設の HP 等で視覚障害者にとって安全なルートの明示		○視覚障害者が安心して乗降することができるバスの導入
2）介助が必要な場合、一般駐車場では狭くなり、介助することを想定したスペースが必要である。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
3）目視での確認が難しいため、段差や階段につまづいたり、転倒やけがに繋がる恐れもある。 特に古い施設では、施設の出入口に階段がある場合も多く見受けられる。		●床面のフルフラット化（P38） ●段差ができる場合は段差を低くしたり、スロープ設置（P39） ●連続性のある手すりを両側の壁に設置（P39） ●エレベーター、エスカレーターの設置（P39）	●簡易スロープの設置（P61） ●施設スタッフによる昇降サポート（P61） ●段差迂回ルートやエレベーター設置場所の表記（P62）	（②設計・建設と同様）	
4）目視で障害物等を確認することが難しいため、廊下等で転倒したり、壁にぶつかったりしてケガをする恐れがある		●連続性のある手すりを両側の壁に設置（P39） ●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用（P41） ●壁に衝撃吸収性の高い素材を採用	●雨天時のこまめな床清掃（P63） ●通路にモノを置かない（P64） ●点字ブロックの上にモノを置かない（P64）	（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
		（P４１） ●休憩スペースの設置（P４１）			
５）体育館等、運動をする場所で転倒してケガをする恐れがある。		●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41)		（②設計・建設と同様）	
６）視覚による施設やマップの情報確認が困難であるため、特に初めての施設では施設内の移動が不安になる。		●誘導ブロックの敷設（P42）		（②設計・建設と同様）	
７）視覚による情報を得ることが難しいため、壁やガラスの位置を把握しづらく衝突の危険性がある。		●壁面近くに視認しやすいラインを敷設（P44）	●ガラスに視認性の高いテープ貼り付け（P64）	（②設計・建設と同様）	
８）盲導犬が必要な利用者の場合、利用者の運動時に盲導犬が待機できるスペースや、盲導犬用のトイレが必要である。		●盲導犬用トイレの設置（P50）	●盲導犬待機スペースとトイレスペースの確保（P71）		
９）スポーツをするための用品や用具が施設になく当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
10）視覚での情報が少ない場合、用具を必要な場所に持ち運んだり設置作業をすることが困難であるため、コートの設営が手間となる。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）	（②設計・建設と同様）	
11）視覚障害のなかでも全盲、色弱、弱視等、細かな違いがあり、必要な設備や器具、サインの色彩等の対応もそれぞれに適合する異なったものが必要である。		●サインにユニバーサルデザインフォントの採用（P54） ●見えやすさについて当事者による確認、点検（P54）	●ユニバーサルデザインフォントを採用した表記（P54） ●施設スタッフへの教育実施（障害者対応講習会等への積極的参加を推進）（P85）	（②設計・建設と同様）	
12）盲導犬を必要とする人がスポーツ観戦をしたい場合、観客席に盲導犬の待機スペースがないと行きづらい。		●盲導犬の待機スペースとして利用できるよう取り外し可能な座席の設置（P56）			
13）来館前に施設情報が分からないと、当事者自身が利用することができる施設かどうかわからないため、来訪時不安となる。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
14）介助者に同行してもらわないと来館して運動することが難しいものの、介助者の利用料金が負担となり来館しづらい人もいる。			●介助者も減免対象化（P74）		
15）視力が低いため、沢山あるロッカーの中から自身のロッカーを探すことが困難である。			●ロッカーとキーホルダーにロッカー番号を点字で貼り付け（P79） ●ロッカーの色を変えたり番号を大きくし、視認性向上（P79）		
16）視覚情報を得ることが難しいため、ルームランナーや体組成計などを操作する際、視覚的な操作を必要とする場合、その機材を利用することが困難である。			●トレーニング器具の各ボタンに機能を説明する点字貼付（P80） 〇音声で対応することができる機材の選定（音声で知らせる機器はあるものの、人によっては音声で人に聞かれたくない場合があること		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
			に留意） ○初めに器具などの配置や使用方法などを説明するとともに、困っている場合は声がけの実施		
17）プール利用の際、目が不自由なため気づかぬうちに他の利用者に接近してぶつかる危険性がある。そのため、事故防止のためにレーンを自分一人で泳ぎたい当事者もいると想定される。			●視覚障害者の泳いでいるレーンに「視覚障害者遊泳中」などの表示をすることで、他の利用者に理解、配慮促進（P81）		
18）介助者なしでの利用を拒否されることがあるが、介助者を雇うのは金銭的負担が大きい。またスポーツ実施の補助までは介助者の協力を得られないケースもあるため、障害に関わらず利用ができるように施設での受入体制を整える必要がある。			○事前予約により、あらかじめ施設側の人員配置 ○障害者が来館した場合の各フロアとの情報共有フローを決めておき、随時、誘導 ○インテークをしっかりと行い、介助が必要な場面を確認した上で施設側がサポートの実施		○施設への行き帰りに移動支援のガイドヘルパーの活用 ○公共スポーツ施設におけるスタッフの教育やサポートを含めたスタッフの配置について、制度化又は基準化の検討 ○施設職員だけではなく、ボランティアの育成・グループの構築

（５）聴覚障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）介助が必要な場合、一般駐車場では狭くなり、介助することを想定したスペースが必要である。また、聴覚による情報を得ることが難しく車の音や人の声が伝わりづらいため、駐車場から施設出入口間の距離が長いと事故発生の恐れもがある。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
２）スピーカーなどからの音声情報等を得ることが難しいため、緊急時の逃げ遅れが起こる場合がある。		●文字で情報を伝えるための電光掲示板やデジタル機器の設置（P47） ●緊急事態を伝えるフラッシュライトの設置（P47）	●文字で情報を伝えるための電光掲示板やデジタル機器の設置（P47） ●緊急事態を伝えるフラッシュライトの設置（P47） ●文法が分からず文章だと理解しづらい人もいるため、受付などで筆談をする際には助詞や副詞を除き、簡単な単語だけでやり取りの実施（P69）	（②設計・建設と同様）	
３）聴導犬が必要な利用者の場合、利用者の運動時に聴導犬が待機できるスペースや、聴導犬用のトイレが必要である。		●聴導犬用トイレの設置（P50）	●聴導犬待機スペースとトイレスペースの確保（P71）	（②設計・建設と同様）	
４）スポーツをするための用品や用具が施設になく当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
5）声を通してのコミュニケーションが困難な利用者の場合、設営方法を伝えたり協力したりの作業になると時間が掛かってしまうことが想定され、コートの設営が手間となる。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）	（②設計・建設と同様）	
6）運動の際に指導者の声が聞き取れず、スムーズに動きづらい。		●全方位スピーカーの設置（P53）		（②設計・建設と同様）	
7）聴導犬を必要とする人が観戦目的で来館した場合、観客席に聴導犬の待機スペースが必要である。		●聴導犬の待機スペースとして利用できるよう取り外し可能な座席の設置（P56）			
8）大きな声でないと内容を聞きとれないために、周囲に迷惑をかけるのではないかと不安になる。			●理解しやすい文字･文言･図解等の提示（P54） ●施設スタッフが手話をできない場合、口話や筆談等、視覚的に相手が望む方法での対応（P69） ●音声文字化ソフト（UD トークなど）等、IT 技術で効果的なコミュニケーション手段の活用（P69）		
9）使用可能な設備などが限られてしまう可能性があるため、来館前に施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
10)利用受付方法が電話だけだと予約することが困難である。			●FAX や施設ホームページからの利用申し込み受付（P59）		
11) 来館した際に施設スタッフとのコミュニケーションをとりづらい。			●手話や筆談、文字変換アプリの活用による説明（P69）		
12) スポーツをしている際、指導者の説明内容が聞き取れず、理解できない場合がある。			●施設担当者が手話をできなくても、口話や筆談等、視覚的に相手が望む方法での対応（P69） ●文字変換ソフトやアプリの活用による説明（P８０） ●当事者に合わせたスピードで説明や個別に説明の実施（P80） 〇インテークをしっかりと行い、介助が必要な場面を確認した上で利用者のサポートの実施		
13)介助者に同行してもらわないと来館しても運動が難しいものの、介助者の利用料金を負担と感じて来館しづらい人もいる。			●介助者も減免対象化（P74）		
14) スタートの合図が聞こえづらいため、競技において他の参加者と同じタイミングでスタートできない。			●聴覚障害者用スタートランプの設置（P82）		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
15）緊急時にブザーを押した際、管理室から問いかけがあっても声で反応できないため、誤報と認識されるリスクがある。			○緊急ブザーが鳴った際に、聴覚障害者は緊急時に音で情報をキャッチできないことを認識し、該当場所の内部を確認できるカメラの設置、更に必ず現場確認 ○モニター等の監視設備の設置 ○利用者が状況を伝えることのできるカードを事前に受付等で用意 ○エレベーターでは携帯メール対応を検討		

（6）内部障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）当事者が運転できない場合、施設への移動手段が少なくなる。施設までのアクセス方法に関して、施設が地域と連携することや情報発信を行うことが求められる。	●最寄駅等からの巡回バスや地域コミュニティバス等との連携・提供等による施設のあり方の検討（P33）		○施設のHP等でバリアフリールートの明示		
2）介助が必要な場合、一般駐車場では狭くなり、介助することを想定したスペースが必要である。また、障害によっては駐車場から施設出入口までの歩行が困難な方がいる。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
3）障害によって身体能力が低下した場合に、廊下等で転倒したり、壁にぶつかったりしてケガをする恐れがある。		●連続性のある手すりを両側の壁に設置（P39） ●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41) ●壁に衝撃吸収性の高い素材を採用（P41） ●休憩スペースの設置（P41）	●雨天時のこまめな床清掃（P63） ●通路にモノを置かない（P64）	（②設計・建設と同様）	
4）酸素ボンベを持つ必要がある人の場合、その重さにより階段の上り下りなどが負担となる。		●エレベーター等の設置（P39）	●簡易スロープ、段差対応用のプレート準備（P61）	（②設計・建設と同様） ○簡易スロープ、段差対応用のプレート準備	
5）足腰が弱くなったり、平衡感覚を保ちづらくなることも想定され、体育館で転倒しケガに繋がる恐れがある。		●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41)		（②設計・建設と同様）	
6）オストメイトの方は、オストメイト対応のトイレが無いとストーマ装具や汚れ物を洗ったり、汚れた腹部を洗うことができないため施設利用がしづらい。		●一般の男女用トイレにもオストメイト用設備のある個室設置（P46）		（②設計・建設と同様）	
7）介助者が異性の場合、一般の男女用トイレ		●誰でも使える多目的トイレの設置		（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
では周りの目が気になり、異性介助がしづらい。		（P46）			
8）スポーツをするための用品や用具が施設になく当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
9）障害により疲れやすくなったり、足腰も弱くなっている場合、思うように動くことが困難となりコートの設営が手間である。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）	（②設計・建設と同様）	
10)来館前に障害に適した設備があるかどうかなど施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
11)たとえ介助者であっても排便時に近くにいられることが不快である。			●多目的トイレ内にカーテンの設置（P68）		
12)介助者に同行してもらわないと来館しても運動が難しいものの、介助者の利用料金が負担となり来館しづらい人もいる。			●介助者も減免対象化（P74）		
13) 急に症状が悪化するリスクがあるため、それぞれの障害に合わせた緊急対応が即座に求められる。			●利用者の家族と事前に対応等について情報共有（P89）		
14) 障害が外見からではわかりづらいため、もしものときに適切なサポートがあるか分からず不安である。			●利用者とコミュニケーションを取り、障害状況と、緊急の際の対応についての聞き取りにより事前準備（P89） ●普段から積極的な声掛けを行ったり、「何かお困りのことがあったらお声がけください」とサインを出すなど、いつでも話しかけやすい雰囲気の構築（P84） ○予約入館時に体調等の情報の共有 ○緊急時の対応のために、エレベーターはストレッチャーに対応		○利用者に対し、かばんにヘルプマーク装着を促進 ○災害訓練やイベントを実施

（7）知的障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）居住地によって、安心・安全に利用できるスポーツ施設が自宅近くにないことがある。	●施設までのアクセシビリティの改善（P33） ●知的障害者にとって必要な環境を把握し、計画への位置づけの検討（P34）	●知的障害者にとって必要な環境を把握し、計画への位置づけの検討（P34）	●障害のある方も安心して利用しやすい環境を整えたうえでバリアフリー情報など発信（P62） ○簡単な利用の決まりや注意内容を理解できる理解力があるか、てんかんがあるかの確認	（②設計・建設と同様）	○社会福祉協議会などに活動の場を照会依頼

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
2）感覚過敏により、聴覚から得る情報を発端としてパニックが発生する恐れがある。		●カームダウン、クールダウンルーム、センサリールームの設置(P47) ●居室内の壁面に音が反響しづらい素材の採用（P48）	●カームダウン、クールダウンに利用可能な代替部屋の用意（P47） ●貸出用イヤーマフの用意（P66） ●館内の照明や BGM をオフ（P66） ●利用者の家族と事前に情報共有（P89）	（②設計・建設と同様）	
3）障害の重さによっては、狭いスペースにいることが心理的ストレスになる可能性がある。		●アリーナなど壁の仕切りを可能な限り排除（P50）			
4）スポーツをするための用品や用具が施設になく当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペースの確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
5）知的障害により正しい設営方法を理解することが困難となることがあるため、コートの設営のサポートが必要である。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）	（②設計・建設と同様）	
6）特に家族は当事者の障害を踏まえて安心して利用できる施設であるか、来館前に施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
7）集団行動をしたくない人もいるため、個人の利用でも施設を使用できる受入態勢が施設側として必要である。			●障害のある方も安心して利用しやすい環境を整えるため、施設のバリアフリー情報等の発信（P62） ●個人利用の許可（P73） ●利用者との適度なコミュニケーション（P87） ●指導者側（職員側）の障害に対する理解の醸成（P89）		○自宅で行えるスポーツの開発・推進 ○オンラインスポーツプログラム、オンライン指導、オンライン相談の活用、ひとりで運動できるプログラムの提供
8）障害の重さによっては、個人情報の記載などに時間が掛かるため、利用申込書の記入事項が多いと大変である。			●受付・申し込み手続きの簡素化（P72）		
9）場所や時間で行動を覚えている当事者の場合、教室のプログラム内容や器具の場所が変わるとスムーズに利用できない可能性がある。			●プログラムのルーティン維持（P76） ●用具の置き場維持（P88）		
10）介助者がいない場合に利用を拒否されることがあるが、介助者を雇うのは金銭的負担が大きい。またお願いをしてもスポーツ実施の補助まではお願いできないケースがある。			●スポーツを実施する際の介助者の配置や斡旋、介助者も減免対象化（P74） ●属性を理解しているスタッフの配置（P89）		○定期的な、運動プログラムを提供する教室や対応可能な総合型地域スポーツクラブの活動を紹介
11）特別支援学校がスポーツの場の中心になっているため、学校を卒業すると、スポーツを実施する場が少なくなる恐れがある。			●障害者スポーツ教室の開催、普及活動実施（P74） ○特別支援学校と連携したプログラムを提供し、卒業後もスポーツができる施設があることを周知 ○在学中に授業の一環としてスポーツセンター等の利用体験の実施		○定期的な運動プログラムを提供する教室や対応可能な総合型地域スポーツクラブの活動を紹介

（８）精神障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）感覚過敏により、施設の聴覚情報などによって、パニックが発生する恐れがある。		●カームダウン、クールダウンルーム、センサリールームの設置（P47） ●居室内の壁面に音が反響しづらい素材の採用（P48）	●カームダウン、クールダウンに利用可能な代替部屋の用意（P47） ●貸出用イヤーマフの用意（P66） ●館内の照明や BGM をオフ（P66） ●利用者の家族と事前に情報共有（P89）	（②設計・建設と同様）	
２）閉所恐怖症などの恐怖症性障害の場合、狭いスペースにいることが心理的ストレスになる場合がある。		●アリーナなど壁の仕切りを可能な限り排除（P50）			
３）スポーツをするための用品や用具が施設になく、当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペース確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
４）他者とコミュニケーションを図り、設営方法を把握することが難しい、また自ら設営をすること自体が手間である場合がある。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）		
５）自らの障害を踏まえて利用しやすい設備が整っているか、来館前に情報が分からないと不安で利用しづらい。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
６）精神障害の重度の差によって集団行動を苦手にする場合がある。			●安心して利用しやすい環境を整えるため、施設のバリアフリー情報等の発信（P62） ●施設内の個人利用の許可（P73） ●利用者との適度なコミュニケーション（P87） ●指導者及び施設スタッフ側の障害に対する理解の醸成（P89）		○専門家に相談し、利用者が選択できる環境づくり(例:YouTube 等で興味がありそうなプログラムを家庭内で行うか、ウォーキングやサイクリングなど個人レベルで楽しめる活動を選択） ○自宅でも行うことができるスポーツの開発・推進 ○オンラインプログラム、オンライン指導、オンライン相談の活用
７）他の人と一緒に何かをするのが難しい利用者や、人と比べられずに一人で運動したい利用者もいる。そのため、障害があっても個人利用のできる環境が必要である。			●個別プログラムの実施（P73） ●個人や団体等での利用など貸出単位の見直し、選択肢の検討（P73） ○医療施設や専門家との連携を確保し、地域の住民の現状に関するデータを踏まえ、利用時間帯を確保するなどの配慮 ○施設利用開始前にヒアリングを行い、利用者本人のニーズを確認し、施設利用の案内		○対応可能な民間スポーツ施設と連携し、自治体の補助金等を使えるようにしながら地域全体でカバー（公共スポーツ施設が様々な障害に対応するための情報ハブ化） ○精神保健福祉連盟等で情報を収集してもらうよう説明
８）障害によっては読み書きにストレスを感じる利用者もいることから、利用申込書の記入事項が多いと大変である。			●受付・申し込み手続きの簡素化（P72）		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
9）ルールや器具の使い方が難しいと理解することが困難である。			●提供する活動メニューの検討（P74） ●ルールや器具の使用方法などをゆっくりと丁寧に説明し、新しい施設を使用する不安などが解消できるような配慮（P80） ●一目でわかるような絵や写真で掲示（P80） 〇単純なスポーツ活動、レクリエーションプログラムを選択、当事者の理解を確認しながら進行		
10）教室のプログラム内容や器具の場所が変わるなど場所や時間の変更など状況の変化に上手く適応できず、快適にスポーツに取り組むことができない場合がある。			●プログラムのルーティン維持（P76） ●用具の置き場維持（P88）		
11）障害の重度の差によって、人が集まるところに行くことができない、人と関わることが苦手な場合がある。			●落ち着いて取り組める環境や休憩できるスペースの確保。（P79） ●困っている様子に気づいたら、スタッフによる積極的に「手伝いましょうか」と声をかけ、早めに優しい声かけの実施。（P84） ●手伝いが不要な場合でもそばで見守り、安心感を提供（P84） 〇通院している医師からの運動処方があれば提示してもらい、活動内容について事前に相談。対応に分からないことがあれば担当医と直接連絡できる方法を確保。 〇発達障害者は病状に波があることが多いため、服薬のコントロールや生活について確認できる支援者と連携。 〇一方的に話したり、同じ質問を何度も繰り返す場合にも、まずは相手の話を聞き、落ち着くのを待ってから用件を整理。		〇自宅で行えるスポーツの開発・推進 〇オンラインスポーツプログラム、オンライン指導、オンライン相談の活用

（9）発達障害

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）施設の音響や利用者、子どもの声などが反響しやすい場所で感覚過敏によるパニック発生の可能性がある。	●発達障害者に配慮した施設整備に配慮し、拠点化（P34）	●カームダウン、クールダウンルーム、センサリールームの設置（P47） ●居室内の壁面に音が反響しづらい素材の採用（P48）	●カームダウン、クールダウンに利用可能な代替部屋の用意（P65） ●貸出用イヤーマフの用意（P66） ●館内の照明や BGM をオフ（P66） ●利用者の家族と事前に情報共有（P89）	（②設計・建設と同様）	○対応可能な民間スポーツ施設と連携し、自治体の補助金等を使えるようにしながら地域全体でカバー（公共スポーツ施設が様々な障害に対応するための情報ハブ化）
2）発達障害者に対して対応したスタッフを配備できていなかったり、設備が整っていなかったりすることから、施設を使えないことがある。	●発達障害者にとって必要な環境を把握し、計画への位置づけの検討（P34）		●個々の必要性に応じた場所の選択を、利用者側と確認（P84） ●専門知識を持つスタッフの配置（P85） ○パニックを起こした際に対応が可能な機関・組織とのネットワーク形成		
3）発達障害により、地図が理解できなかったり、道を覚えられなかったりする場合がある。施設内の動線が複雑でわかりづらいと行きたい場所へスムーズにたどり着けない可能性がある。		●道しるべとなる目印を通路に設置（例えば、床に赤いラインを引いて、何かあったらそれを辿れば施設担当者がいる場所にたどり着くなど）（P44）	●何かあった際に道しるべとなる目印を通路に設置（例えば、床に赤いラインを引いて、何かあったらそれを辿れば施設担当者がいる場所にたどり着くなど）（P95） ○施設を使う流れに沿って案内。絵や図、ふりがな付きの表示板などで案内や説明をしたり、ゆっくりとわかりやすい言葉で説明（介助者がいる場合、一緒に案内する）	●把握しやすいサイン表示への改修（P95）	
4）発達障害の人にとって狭いスペースにいることが心理的ストレスになる場合がある。		●アリーナなど壁の仕切りを可能な限り排除（P50）			
5）スポーツをするための用品や用具が施設になく当事者自身での持参が必要な場合、荷物が増えてしまい手間である。		●障害者スポーツの備品収納スペースの確保と備品の用意（P51）	●用具の貸し出し（P73）		
6）発達障害により正しい設営方法を理解することが困難となることがあり、コートの設営が手間である。サポートが必要である。		●実施頻度の高いスポーツのコートを常設（P52）	●スタッフによる設営サポート（P88）	（②設計・建設と同様）	
7）使用可能な設備などが限られてしまう可能性があるため、来館前に施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
8）発達障害者の中には、上手くコミュニケーションが取れなかったり、周りを気にしてしまい集中して取り組めなかったりするために、集団行動はしたくない方がいることがある。			●障害のある方も安心して利用しやすい環境を整えるため、施設のバリアフリー情報等の発信（P62） ●個人利用の許可（P73） ●利用者との適度なコミュニケーション（P87） ●指導者側（職員側）の障害に対する理解の醸成（P89）		○専門家に相談し、利用者が選択できる環境づくり(例:YouTube 等で興味がありそうなプログラムを家庭内で行うか、ウォーキングやサイクリングなど個人レベルで楽しめる活動を選択） ○自宅でも行うことができるスポーツの開発・推進

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
					○オンラインプログラム、オンライン指導、オンライン相談の活用
9）障害の度合いの差によっては、読み書きがスムーズに行うことができないため、利用申込書の記入事項が多いと大変である。			●受付・申し込み手続きの簡素化（P72）		
10）健常者のみ対応しているプログラムもあり、好きなプログラムに参加したくても属性により参加が困難な障害者もいる。健常者・障害者の区別なく誰でも参加可能な習い事があればよい。			●提供する活動メニューの多様化（P74） ●スポーツ教室のプログラムにだれもが参加対象である旨表記（P75） ●発達障害の理解を促す指導者養成や研修（P89）		○個々の特徴（長い時間座っていられないとか、同じことを繰り返しできないなど）を理解している専門家やグループの情報を得ながら当事者側で活動の場を探してもらうよう説明
11）教室のプログラム内容や器具の場所が変わるなど場所や時間の変更など状況の変化に上手く適応できないため、快適にスポーツに取り組むことができない場合がある。			●プログラムのルーティン維持（P76） ●用具の置き場維持（P88）		

（１０）子育て親世代

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）乳幼児を抱えた親にとっては、ベビーカーなどを使用したり、荷物が多くなったりすることから一般駐車場では狭い場合がある、 また、乳幼児を抱えていると傘を差しづらい場合もある。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
２）乳幼児を抱えた親は両手が塞がってしまうことから、ドアの開閉をしづらい。		●力を入れずに開閉可能な引き戸の採用(P40) ●扉の取っ手の工夫（引き戸の場合は長めの棒状の取っ手、開き戸の場合はレバーハンドル）(P40)		（②設計・建設と同様）	
３）周りの目が気になり、異性の子どもと一緒にトイレを使いづらい。		●性別を問わず誰もが利用できるトイレやシャワー室、更衣室の設置（P45）		（②設計・建設と同様）	
４）運動している間も子どもはじっとしていないため、常に居場所を確認していないと迷子や事件・事故の恐れもある。子どものことが気になり運動しづらい場合がある。		●託児サービスを提供する部屋の設置（P48） ●キッズルームの設置（親の運動場所から見える場所に）（P49）	●託児ボランティアの委託（P67） ●親子で参加可能な教室の開催（P75）	（②設計・建設と同様）	
５）離乳していない子を連れての施設利用である場合、一定の頻度での授乳が必要である。施設に周りを気にせず授乳できる場所がないと、施設利用が思うようにできない可能性がある。		●授乳室の設置（P67）	●授乳室として利用可能な部屋の用意（P67）	（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
６）子どもがいても運動をしやすい施設であるか、来館前に分からないと不安で施設を利用しづらい。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
７）子育て世代の親は子どもの成長に合わせて様々な悩みがあり、小さな悩みでも一人で抱えてしまうことで大きなストレスになりうる。少しでもストレスを緩和して精神的な安定につなげるためにも、子どもの悩みを相談できる場所が必要である。			●子育て相談室の設置（P67）		

（１１）女性

１）妊婦

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）一般駐車場では、特に妊娠後期の場合はお腹が大きくなることや、介助してもらう場合にも狭く感じてしまう。妊娠中は長距離の歩行が困難な状況も起こりうる。雨が降っている場合には、切迫早産の予防などの観点からあまり多くの荷物を持たないほうがよいこともあるため、降りてから荷物も持ち、傘を差すことは大変である。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
２）妊娠前よりも足を上げづらくなるため、段差や階段が身体的負担となる。		●床面のフルフラット化（P38） ●段差ができる場合は段差を低くしたり、スロープ設置（P３９） ●連続性のある手すりを壁両側に設置（P39） ●エレベーター、エスカレーターの設置（P39）	●簡易スロープの設置（P61） ●施設スタッフによる昇降サポート（P61） ●段差迂回ルートやエレベーター設置場所の表記（P６２）	（②設計・建設と同様）	
３）体型と重心の変化により姿勢のバランスが取りにくくなる場合がある。そのため、廊下等で転倒したり、壁にぶつかったりしてケガをする恐れがある。		●連続性のある手すりを壁両側に設置（P39） ●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41) ●壁に衝撃吸収性の高い素材を採用（P41） ●休憩スペースの設置（P41）	●雨天時のこまめな床清掃（P63）	（②設計・建設と同様）	
４）力を入れることが難しかったり、力を入れることが母体に良くない場合もあるため、ドアの開閉をしづらい。		●力を入れずに開閉可能な引き戸の採用(P40) ●扉の取っ手の工夫（引き戸の場合は長めの棒状の取っ手、開き戸の場合はレバーハンドル）（P40）		（②設計・建設と同様）	
５）体型と重心の変化により姿勢のバランスが取りにくくなる場合がある。そのため、体育館		●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41)		（②設計・建設と同様）	

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
で転倒してケガをする恐れがある。					
6）妊婦であることで、使用可能な設備などが限られてしまう可能性があるため、来館前に施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		
7）運動をしたいものの、妊婦でもできる運動が分からない。			●マタニティプログラムの提供（P76）		
8）血圧の低下や血液量の増加などにより、非常に疲れやすくなる場合がある。			●背もたれや肘掛け付ベンチの用意（P79）		

2）一般女性

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）子どもが苦手な人にとっては、他の利用者の子どもが近くにいると安心してスポーツをできない。	●子ども（幼児・学童）が安心して利用できる空間の確保にむけたニーズの把握（P28）	●キッズルームの設置（P４９）		（②設計・建設と同様）	
2）施設に人が集中している日や時間は、更衣室やトイレが混雑して使いづらい場合がある。		●男女の部屋の入れ替え可能な設え（P53）	●状況に応じた入口表記の変更（P53）	（②設計・建設と同様）	

（１２）子ども

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
1）大人と比較し視野が広くないため、段差や階段に気付かず、転倒やけがにつながる場合がある。		●床面のフルフラット化（P38） ●段差ができる場合は段差を低くしたり、スロープ設置（P３９） ●連続性のある手すりを両側の壁に設置（P39） ●エレベーター、エスカレーターの設置（P39）	●簡易スロープの設置（P61） ●施設スタッフによる昇降サポート（P61） ●段差迂回ルートやエレベーター設置場所の表記（P６２）	（②設計・建設と同様）	
2）思いっきり走ったり、動きに加減できなかったりすることから、体育館で転倒してケガをする恐れがある。		●滑りづらく、衝撃吸収性の高い床の採用(P41)		（②設計・建設と同様）	
3）小さい子どもは高い場所に手が届きづらい。		●受付台や洗面台等に高さの低い規格を採用（P43）		（②設計・建設と同様）	
4）小さい子どもは視線が低いため、高い位置の情報を見づらい。		●床面や壁の低い位置に居室情報等を記載（P44）		（②設計・建設と同様）	
5）水の中で足のつかない小さな子どもは水深が深いと溺れる危険性がある。		●水深の変更可能な可動床の採用（P51）		（②設計・建設と同様）	
6）館内情報が漢字だと読むことが難しく、必要な情報を取得しづらい。		●漢字にふりがなを振ったり、イラストや図を用いたサイン設置（P54）	●漢字にふりがなを振ったり、イラストや図を用いた案内表記（P54）	（②設計・建設と同様）	
7）大人向けの設備ばかりであると、施設内で楽しめない。			●デジタルアトラクションなど楽しめるコンテンツの導入（P76）		

（１３）外国人

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）日本人に比べて身体が大きいため、施設や設備が狭かったり小さかったりすると使いづらいことがある。		●広い更衣室やシャワー室、大きめの便器の設置（P45）		（②設計・建設と同様）	
２）日本語が読めない場合、館内情報が日本語だけであると読むことや理解することが困難である。		●周辺地域に居住する、または利用想定の高い外国人の母国語のサイン設置（P54）	●周辺地域に居住する、または利用想定の高い外国人の母国語表記（P54） ●日本国内のスポーツ施設が標準的に使うピクトグラムの作成と使用(P62) 〇通訳アプリの配備	（②設計・建設と同様）	
３）宗教によっては礼拝できる場所がないないと不便である。		●礼拝専用スペースの設置（P71）	●多目的ルームの礼拝部屋としての活用（礼拝用マットの用意）（P71）	（②設計・建設と同様）	
４）タトゥーが入っているという理由で施設の利用を断られるケースがある。			●タトゥーが見えなくなる水着の着用を条件とした利用許可（P83）		

（１４）LGBTQ＋

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）外見と中身の性が一致していない場合など、周りの目などもあるため、男女別トイレだけでは使いづらい。		●性別を問わず誰もが利用できるトイレやシャワー室、更衣室の設置（可能であれば一般の男女トイレ内および独立した多目的トイレの両方を設置）（P45）	●男性用トイレにもサニタリーボックスの設置（P70）		
２）外見と中身の性が一致していない場合、プライベート空間が無いと、更衣室等で周りの目が気になる。 多目的トイレや男女共同トイレ更衣室などが設置されていても、離れた場所にあると、他者の視線が気になって使いづらい。一般トイレと近い場所にある施設の場合も、「そのトイレを使う理由は何？」という好奇の目で見られて使いづらい。		●ジェンダーフリートイレ、更衣室、男性用授乳室、シャワーの設置（P45） ●当事者が他の利用者の視線を気にすることがないような設計の工夫（1 階 2 階のフロアに男女別のトイレがあれば、１階のトイレを女性トイレと共用トイレにし、２階のトイレを男性用と共用トイレにするなど）（P46） ●一般トイレと近い位置への当該トイレ配置（P46） 〇館内に複数の個室トイレが並ぶ場所の設置	●個室の設置が難しい場合には、カーテンやパーテーションで区切るなどして対応（P68） ●案内板を張り替え可能にし、状況によって使い分け（P53） ●男性トイレにもサニタリーボックス設置（P70）		
３）自分に合った設備などの用意が無い可能性があるため、来館前に施設情報が分からないと不安である。			●施設ホームページ上で設備や備品、スタッフ対応について情報発信(P58)		

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
４）施設を利用する際にスポーツ施設がLGBTQ＋フレンドリーな施設であるか表明されていない場合がある。当事者が問い合わせることでアウティングにつながってしまうため、対応状況を事前に発信してほしい。			●施設側から情報発信（差別をしないことへの表明、対応施設・設備・人材配置状況、個人のプライバシーにかかわる情報を取得する場合は必要性を説明する）（P68） ●属性理解の研修（P89） ●LGBTQ＋への対応の広報（P68）		
５）自身の性特性を知られたくないという理由から利用申込時に性別を記入したくない場合がある。			●名前だけの記入にする（P72）		
６）LGBTQ＋の人を揶揄する利用者を注意するなどの対応が運営側で必要であり、職員にそうした研修を行っている施設もあるが、利用者に対してどこまで指摘・注意できているか不明である。			●LGBTQ＋フレンドリーの表示を行うことで利用者への啓蒙（P73） ●LGBTQ＋への対応の広報（P68） ●スタッフに属性理解の研修実施（P89） 〇職員のみならず利用者も含めた啓発活動を推進		
７）肌を露出し自身の生まれ持った性の身体つきを可能な限り出したくない利用者がいる場合がある。公共のプールを利用するときにラッシュガードが使用できないなど水着が指定されるケースがあり、快適に施設利用ができない場合がある。			●水着の制限をなくす。制限の必要性がある場合は事前に開示（P83） ●LGBTQ+への対応の教育と広報（P89） ●水着やウェアの着用ルールを文化的多様性や性の多様性を踏まえたものに見なおし（P83） 〇施設側に対して水着の選択理由を明確にしながら、理解促進		
８）当事者は、自身が人と違うことを意識しないで運動をしたい。			●性理解に関する研修に参加したスタッフ配置（P89）		
９）公共施設・民間施設ともにLGBTQ＋の人々に対する理解や、当事者への対応に関するスタッフ教育が追い付いていないため、困ったときに問い合わせできる環境がない。			●対応窓口や相談スタッフの配置、性的マイノリティに関する理解促進のためのスタッフへの研修、オープンマインドな当事者スタッフの雇用促進（P89） ●LGBTQ＋への対応の教育と広報（P89） ●スタッフに属性理解の研修実施（P89）		〇公共、民間いずれも活用できる、e-ラーニングなどの教材作成 〇日本スポーツ施設協会としても関係団体と協力し、啓発活動を推進

（１５）上記以外の利用属性

スポーツ施設の利用に際しての障壁	望まれる当該属性への対応				
	①構想・計画	②設計・建設	③管理・運営	④改修	その他
１）けがをした人にとって身体が思うように動かせないことから一般駐車場では狭いため乗り降りしづらい。 また、けがの場所によっては歩行が困難であったり、手のケガの場合は傘を差しづらい。		●出入口近くに思いやり駐車場設置（出入口まで屋根を設置）（P36）	●出入り口付近のスペースの臨時開放による広いスペース確保（一般利用者に使用されないような表示）（P60） ●駐車スペースに関する事前相談の受付（P60）	（②設計・建設と同様）	
２）働き盛り世代は、仲間とのタイミングを合わせづらいため、団体での利用が難しい。			●個人利用の許可（P73）		